

令和5年度 授業評価アンケートに関する
相互評価による指導・助言の為の
自己評価報告書

令和6(2024)年2月
長崎国際大学

◆授業評価アンケートの活用

視点① 学生による授業評価アンケートの実施

視点② IR 業務を担当する者による分析

視点③ 授業評価アンケート分析結果のフィードバック

1. 事実の説明及び自己評価

視点① 学生による授業評価アンケートの実施

本学では、学生による授業アンケートを学期ごとに授業の 11 回目～14 回目で実施する。アンケート実施科目は、3～4 年程度で担当科目を全て実施するよう専任教員に求めている。調査方法は、マークシート自記入式もしくは Web 方式を担当教員が選択している。アンケート様式は、教養セミナー(1 年生、必修科目)、スポーツ実技科目、一般科目(講義型、語学型、実習・演習型)の 3 種類を作成している。設問は全学部共通で、設問数は 10～13 問程度として、希望によって自由設問を追加することが可能である。

令和 4(2022)年度前期は、調査科目数 316 科目(前年 305 科目)、延べ履修者数 14,320 人(前年 14,948 人)、有効回答数 11,431 票(前年 10,165 票)、回答率は 79.83%(前年 68.00%)であった。後期は、調査科目数 233 科目(前年 256 科目)、延べ履修者数 12,917 人(前年 12,841 人)、有効回答数 9,524 票(前年 9,349 票)、回答率は 73.73%(前年 72.81%)であった。

Web 方式(ポートフォリオ上で 1 週間の回答期間)の授業アンケートを導入して以来、平均回答率は、マークシート自記入式と比べると Web 方式は低く、全体の回答率が低下している。

視点② IR 業務を担当する者による分析

集計結果については、各教員は Web(ハイブリッド授業評価システム)上で科目毎に経年比較、学生の自由記述とテキストマイニングについて閲覧できる。また、自己点検・評価委員会では、大学評価・IR 室よりアンケートの大学全体の集計結果の概要及び授業形態別、クラスサイズ別、教員所属学科別、学生所属学科別の授業の満足度集計及びテキストマイニングの結果等が報告され、経年比較等を点検・評価している。

自由記述のテキストマイニングは、①授業の内容、②授業環境、③教員人物、④教員の教え方・学生指導について、⑤学生自身について、⑥その他の 6 分野、30 項目に分類して、それぞれ「肯定」「否定」「中立」「改善要望」に判別している。学生が肯定的に捉えていることや改善要望などを項目毎に示し全体で共有することにより、授業改善の資料としている。

大学全体の前期集計は、肯定的な意見の多い順では、④教員の教え方、学生指導についての「24. 教え方・説明の仕方などの教え方について」が 852 件(前年 822 件)、①授業内容についての「12. 授業内容・教員の講義・話し方の内容・雰囲気など授業についての一般的な意見・感想」が 800 件(前年 578 件)、②授業環境についての「14. 教科書、テキスト以外のレジュメ・プリント・資料等について」は 466 件(前年 392 件)である。否定的な意見では、①授業内容について「1. わかりやすさ・理解・難易度」で 173 件(前年 130 件)、改善要望は、②授業環境についての「14. 教科書、テキスト以外のレジュメ・プリント・資料等について」113 件(前年 98 件)である。

後期集計もほぼ前期と同様の傾向で、④教員の教え方、学生指導についての「24. 教え方・説明の仕方などの教え方について」が 627 件(前年 636 件)、①授業内容についての「12. 授業内容・教員の講義・話し方の内容・雰囲気など授業についての一般的な意見・感想」が 647 件(前年 406 件)、②授業環境についての「14. 教科書、テキスト以外のレジュメ・プリント・資料等について」292 件(前年 296 件)である。否定的な意見では、①授業内容についての「1. わかりやすさ・理解・難易度」で 118 件(前年 43 件)、改善要望は、②授業環境についての「14. 教科書、テキスト以外のレジュメ・プリント・資料等について」77 件(前年 57 件)である。

総じて学生は、④教員の教え方、学生指導に対して好意的でわかりやすいと評価しているが、①授業内容について、わかりやすさ理解・難易度では否定的な評価も見られることから授業内容に関して、特に難易度等の検討が必要な科目もあると評価している。レジュメ等の資料に対しては肯定的評価が多い中で、改善要望も見られることから、科目間での格差が評価に現れたと考える。今後は科目毎に評価を確認・検討して対応を促していく。

学生の自由記述のテキストマイニング分析は、授業改善には有効な資料と考えて各設問の集計とともに今後も継続して分析を行う。

視点③ 授業評価アンケート分析結果のフィードバック

各教員は、集計結果を基に科目毎にアクションプランシートを作成し、科目レベルによる点検・評価が義務づけられている。さらに学部レベルでは、一定の基準を設けて授業アンケートの集計結果と各教員による結果の分析であるアクションプランシートを資料として学部長面談による点検・評価を実施し、授業改善並びに内部質保証に努めている。

アクションプランシートは、(1) 授業に対する満足度の評価結果と推移の明示、並びに向上策、(2) 今回の授業で、学生の受講態度、学習意欲等の向上につながった授業の内容と方法、(3) 改善が必要な授業の内容に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策、(4) 改善が必要な授業の方法に関わる項目、その評価結果と推移の明示、並びに改善策、(5) 授業アンケート評価を受けての授業担当者の所感の 5 項目について記載することとしている。

学部長面接は、新着任の教員や授業アンケートの結果の低い教員等各学部で基準を設定し前期、後期に実施している。面接には学科長および各学科の自己点検・評価委員も陪席し、面接の内容、結果は、自己点検・評価委員が報告書にまとめ、自己点検・評価委員会に提出し共有している。

教員顕彰として、授業アンケートの結果によるベストティーチャー賞を毎年 6 月教授会で顕彰を行っている。また、自己点検・評価委員会は、各学部に授業公開を求めベストティーチャーの授業公開等も実施している。

教育情報の公開、学生への結果のフィードバックとしては、ホームページ、学内のポートフォリオ等で公表し、学生も結果を確認できる。

2. 改善・向上方策（将来計画）

IR 業務は、①調査設計、②データ収集、③データ集計・分析、④データ活用・報告と 4 つの局面が考えられる。

①の調査設計に関して、設問は自己点検・評価委員会で毎回確認しているが特に改善の

必要はないと考える。ただし、現在の調査方法は、マークシート自記入式と Web 方式を教員が授業形態等にあわせて選択している。大学は、デジタル化推進に取り組んでおり、ペーパーレス化、授業時間確保、集計時間の短縮などを考えると、全面 Web 方式に変更する検討時期と考える。ただし、現状で Web 方式は、回答率が低い状況から、授業アンケートは、授業改善に資する学生の意見を聞く重要な調査であるので、Web 方式の回答率を増加させる工夫が必要と考える。回答率の目安としては、マークシート方式のみの時と同様の 80%以上を維持したいと考え、今後自己点検・評価委員会で検討する。

授業アンケートは、内部質保証の観点から、科目レベル、学部・学科レベル、大学機関レベルで分析を行っており、授業改善が大学改革の基本と捉えて、引き続き丁寧な分析・集計を迅速に行っていきたいと考える。

3. 関連資料

- (1) マークシート自記入式用紙 3 種類(Web も設問内容は同じ)
- (2) 授業アンケート概要(前期、後期)
- (3) テキストマイニング全体集計(前期、後期)
- (4) 学部長面談報告書様式
- (5) アクションプランシート様式
- (6) ベストティーチャー賞規程